

【2015 年度 RFLJ プロジェクト未来 助成研究者の横顔 12 清水研先生】

第 12 弾は「患者・家族のケアに関する研究」（Ⅱ分野）よりご紹介致します。

- ◆国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科
- ◆研究テーマ「造血幹細胞移植後のサバイバーを対象とした精神的ケアに関する研究」
- ◆助成金額 50 万円

1. 研究者になろうとしたきっかけ

新しいことを発見したいという気持ちはあったので、研究的な志向性は自分の中にあっただと思いますが、きっかけとしては、ある先輩の姿勢に感銘を受け、その方が自分のロールモデルとなったことです。その先輩は「医者として目の前の患者さんの役に立つだけではなく、研究成果をあげることで世の中の多くの人の役に立つような仕事をする」という強い決意を持って、仕事に打ち込んでおられました。

2. 助成研究の内容紹介（素人にも解るようにお願い致します）

造血幹細胞移植により多くの方の命が助かっていると思いますが、移植は全身の臓器に後遺症をもたらすこともあり、治療前とは体の状況が様変わりする方もいらっしゃいます。現在、移植後の方が実際にどのような問題を抱え、その問題にどのような対処をされているのかを明らかにするために、移植治療後の方にインタビュー調査とアンケート調査を行っております。その調査結果をもとに、治療後の状況に向き合っていくうえでお役に立てるようなサポートを確立することが、RFL の助成をいただく研究の目的です。

3. 2 の将来に繋がる結果予想

全国の造血幹細胞移植の体験者にとって役に立つようなサポートが開発される。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

何度か RFL には参加させていただきましたが、多くの方の切なる思いが込められた基金をもとに、プロジェクト未来が運営されていることを実感しております。今回研究助成をいただき、身が引き締まる思いであり、多くの方の役にたつ成果を出せるよう、全力で研究に取り組んで参ります。